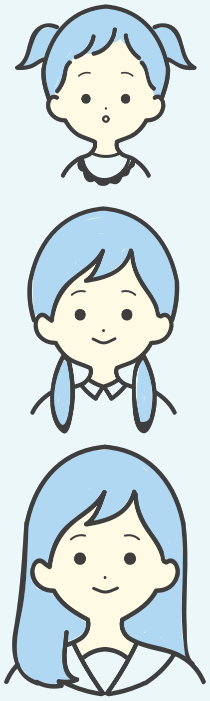
名古屋市では子どもにとって親はどうあるべきかを考え、
子どもとともに親として成長する楽しさなどについて学ぼうとすることを「親学」と呼んでいます。



子どもたちの健やかな成長を 企業から 応援してみませんか?

親学推進協力企業制度

「親学」の推進に理解・協力をいただける企業(団体)の登録制度。
登録企業(団体)には、保護者である従業員が「親学」と向き合う機会を提供していただき、
教育委員会は講師派遣などの支援を行います。

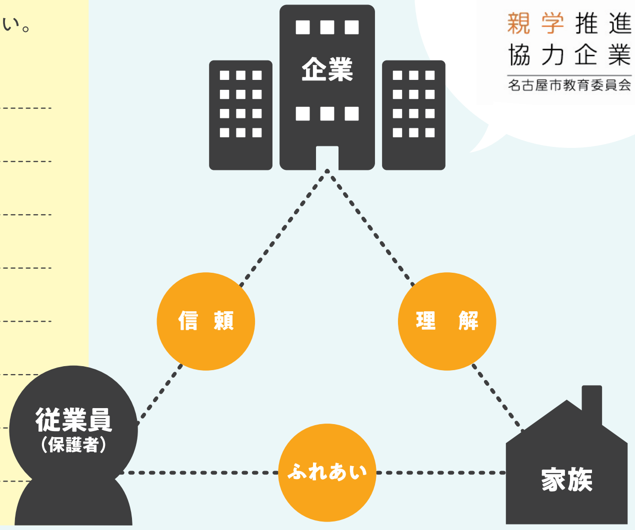
親学推進協力企業ロゴマーク

親 学 推 進
協 力 企 業
名古屋市教育委員会

アクションプラン8項目

下記の8項目のうち、2つ以上の取り組みを選んで登録してください。

- 1 親学を学ぼう!
- 2 親子で体験しよう!
- 3 学校へ行こう!
- 4 家族一緒に食事をしよう!
- 5 子どもの記念日に本を贈ろう!
- 6 地域の行事に親子で参加しよう!
- 7 子どもに仕事を見せよう!
- 8 企業からの独自提案



ご登録いただいた企業への支援

- 名古屋市のホームページに登録企業名を掲載するなど、各種媒体でご紹介します
- 登録企業が実施する家庭教育講座や講演会へ講師を無料で派遣します
- 家庭教育に資する事業を実施する場合に市内の各区生涯学習センターの優先確保及び使用料の減免を行います
- 観光・文化施設の優待割引券を配布します

お問い合わせ
名古屋市教育委員会生涯学習部生涯学習課
〒460-8508 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 TEL:052-972-3253 FAX: 052-972-4178
E-Mail: a3253@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

制度について詳しく知りたい方はこちらから!

親学の取り組みを始めるにあたって、どういう考え方で、どんなことをすれば良いのかがわからない事業所の方も多いと思います。そこで、今回は千種区の洋菓子店「ぷれじゅーるちとせ」の店長、加藤さんにインタビューを実施。従業員とご家族の方との関係づくりや、地域の子どもたちの体験学習に協力する意義など、参考になるお話をたくさん伺いました。

「違う世代から学べることがある」と、経験を通じて知ってほしい

加藤 卓男さん

――では、まず親学の取り組み内容について聞かせてください。

加藤さん（以下、敬称略） 一つは、子どものいる従業員には、お子さんの学校行事に積極的に参加してもらうよう声かけをしています。仕事は休んでもらっていいから、お子さんを優先してほしいと思っています。

そしてもう一つ、従業員の誕生日などの記念日には、店からケーキをプレゼントするんです。一人分ではなく、あえてホールケーキなど大きいものをプレゼントすることで、家族の時間を楽しむきっかけになればいいなと。

――それは、やはり家族との時間を大切にしてほしいという思いが背景にあるのでしょうか？

加藤 はい。当店は私の父の代から約50年にわたって営業していて、私が子どもの頃は店の2階に親子3代の大家族で暮らしていました。おじいさんやおばあさんの代と親の関係性も含めて、日常的におしゃべりしたり、時にはけんかしたりという、当たり前にも見える家族のあり方を幼い頃に感じられたことは、とても大切だったと思うんです。

今は核家族中心の時代ですが、食事やお祝いのときなどは、ゆっくり家族で過ごす時間をとってほしい、という思いがありますね。

――市の中学生の職場体験への受け入れについても、お聞かせいただけますか？

加藤 今は新型コロナウイルスの影響でできていませんが、それまでは毎年2〜3名ほど、職場体験の中学生の子どもたちを受け入れていました。任せていたのは、主にケーキの紙箱を折る、お菓子を包装する、ラベルを貼るといった軽作業です。ケーキ屋さんの華やかなイメージに合う仕事をしてもらいたい気持ちもありましたが、その華やかさの裏にはこうした地道な仕事を毎日こなす大変さがあることも学んでもらいたいという考えで、任せる仕事を決めていました。

――子どもたちも、そういったメッセージを感じ取って成長してくれましたか？

加藤 そうですね。だいたい、1日目は作業を覚えて、2日目で少しずつリラックスできてきて、「どうやるんだっけ？」とお互いにコミュニケーションを取りながらできるようになります。3〜4日目になると、「今までよりも速くやるには？」ということに、ゲーム感覚でチャレンジする子が出てくる。そうすると、良い仕事をするためには自分自身の能力を上げて、頭を使って、チームワークも高めないといけないことが感覚的にわかってくるんです。こういう成長を感じられたからこそ、受け入れを続けていた面もありますね。

学校で学べることと、現場で学べることは違うので、子どもたちにとっては、こうした社会につながる経験は、とても大切だと思います。

――職場体験の受け入れで、従業員の方々を含めお店側にはどんな影響がありましたか？

加藤 従業員としてはやはり受け入れをすることで仕事としては忙しくなるのは確かです。でも、いざ子どもたちが来ると、すごく丁寧に教えてくれるんですよ。

そして、社会経験が少ない子どもたちに教える経験は、教育する側としての糧になる。そうすると、後輩のパートさん、アルバイトさんが入ってきたときに役立つんです。

――最後に、今後の展望も含め、メッセージをお願いします。

加藤 良いコミュニケーションを図るには「ありがとう」や「お世話になりました」などの言葉で人間関係にけじめをつけることが大切です。これができるようになって、人と人の関係性ができていくと思っています。そして、こういうことを教えてくれたのは、家庭でも職場でも、自分よりも上の世代の人たちでした。

だからこそ、自分も下の世代に経験を通じて人間関係の築き方を伝えていきたい。「上の世代から学べる」ということを、ふれあいを通じて感じられる場を、これからも企業として提供していければ良いなと思っています。

従業員の声 Voice

今では子どもも大きくなりましたが、子どもが小さい頃はやはり学校行事に保護者として参加する機会が多くありました。お店の方から積極的に学校行事に参加するように声かけをしてもらえたので、快くお休みをいただけてとても助かりました。

誕生日には、自分自身や家族が忘れているような時でも毎年ケーキのプレゼントをいただいて、家族で楽しむ機会になっています。こういう、アットホームなところがとても嬉しいですね。

また、仕事をするという経験のない子どもたちを受け入れる職場体験についても、地域の方々を大切にする取り組みでとても良いことだと感じています。

ぷれじゅーるちとせ

〒464-0093
名古屋市千種区茶屋坂通1-8
TEL：052-711-1466
FAX：052-711-1467
HP:https://plaisirchitose.com/